



# 道しるべ

記念号!

第40号  
令和5年4月

長崎大学大学院工学研究科 インフラ総合研究センター 道守養成ユニット事務局

## 巻頭言

～インフラ長寿命化センターと道守養成講座の“あゆみとみらい”～

### 1. 道守養成講座のあゆみ

2007年1月、長崎大学工学部にインフラ長寿命化センターが設立されました。翌2008年6月に文部科学省科学技術戦略推進費に、岐阜大学の社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座とともに、「観光ナガサキを支える道守養成ユニット」が採択されました。岐阜大学が社会資本の整備・維持管理を計画・設計・施工/実施できる総合技術者（ME）を養成するのに対して、長崎大学では、長崎県、建設業会をはじめとする地域からの要望により、道守補助員、道守補、特定道守、道守で構成されるステップアップ方式の養成講座を運用しています。

2015年には国土交通省の維持管理民間資格に登録され、技術者としての公共事業活用の検討を開始。2016～18年には、SIP インフラ地域実装プログラムに採択され、道守養成講座修了生とともにスーパー道守構想を掲げて、新規開発技術の社会実装を実施してきました。2018年からは自立運営のための道守養成講座の受講料、登録料及び更新料を有料化。道守補コースを他県にも拡大し、宮崎県と関西地区で開催しています。2020年にはトンネルの診断の民間資格に登録されました。

2017年にインフラメンテナンス国民大賞特別賞を岐阜大学とともに受賞し、また、日本工学教育協会業績賞、日本道路協会道路功労者表彰、2018年に土木学会 Good Practice 賞を受賞しました。

2021年11月には国土交通省長崎河川国道事務所と、社会基盤の整備・保全及び防災・減災に係る地域への貢献、教育及び地域の人材育成、研究・技術開発に関する事項について連携・協力に関する協定書を締結しました。

また、2022年3月には、佐世保市との包括的連携協定に基づき、佐世保市が管理する道路の維持管理の充実を図り地域の再生・活性化に資するため覚書を締結しました。これは長崎市と実施している協定・覚書を佐世保市バージョンに拡張したものです。さらに、長崎県内だけでなく、玉名市技術職員向けのコンクリート演習、四万十市橋梁メンテナンス研修会も実施しています。

### 2. 道守養成ユニットの会

「道守養成ユニットの会」は2021年度で5年目を迎え、現在、県内8地域に分けた地域部会を中核として県内各地で道守活動ができる体制が整ってきました。橋梁点検実習、建設現場見学会、技術研修会等の組織的な継続教育、関係機関との連携が可能になっています。

2019年度から、長崎市より橋梁の効率的維持管理に関する共同研究の依頼を受けて、インフラ長寿命化センターと「道守養成ユニットの会」が連携して点検を実施し、また、点検結果の質の向上を目的として評価検討会議を開催しています。今回の成果として架設年が不明・不詳の7橋の架設年が判明しました。建設施工業の経験を生かした災害復旧や近隣工事の実施状況、架設地点の周辺住民へのヒアリング等が架設年の特定に結び付きました。この長崎市橋梁点検のスキームは佐世保市との連携でも適用していく計画です。

また、2019年度から、九州地域づくり協会の若手人材育成助成により、若手建設技術者を対象とした「道守補助員コース」を企画・開催しています。2021年度も30歳以下の建設業に従事する技術者を募集したところ、建設施工業者、建設コンサルタント業者及び市職員等の20人の応募がありましたが、産官の区別なく若手の担い手が少ない状況にあるという感じを持ちました。

2020年度の国立大学工学部長会議において、総務省自治行政局から、『地域の防災・減災対策の担い手となる土木・建築職等の技術人材については、官民間問わず高いニーズがあり、地域に求められる人材育成機関として、都道府県や市町村と連携し、地域の安全・安心の確保を支える技術人材の育成とその一層の充実について、お力添えをいただきたい。』というような異例の協力依頼がありました。建設分野の人材育成を担う義務の重大さを感じます。

さらに、土木学会「インフラパートナー合同オンライン交流会」に『インフラパートナー制度』とweb情報誌『from DOBOKU』が2021年4月より開始され、「道守養成ユニットの会」も登録申請し、積極的に活動しています。

「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」では九州地区市町村のインフラメンテナンス支援を活動の柱としており、活動内容としてメンテナンス技術のニーズとシーズのマッチングに取り組んでいます。「道守養成ユニットの会」も主催組織として参画しています。新型コロナウイルスの感染拡大のために、2020年度に計画していました「第6回ピッチイベント in ながさき」を2022年8月1日に開催することができました。

「道守養成ユニットの会」では、2021年5月13日のコロナ禍対策としての県下全域レベル5へ引上げと医療危機事態宣言の発出を受けて、コロナ禍で献身的に取り組んでおられる長崎県内8地域部会の医療従事者のみなさまに感謝の気持ちを込めて飲料水等を提供しました。4地域の医師会と4つの離島病院から感謝状をいただきました。「道守養成ユニットの会」のインフラの整備に関わる以外での最初の社会活動です。

このような活動が認められ、2022年3月に、地域発の「道守養成ユニットの会」の活動がインフラメンテナンスプロジェクト賞を受賞。道守養成ユニットの会のHP（URL：<https://www.michimori-unit.org>）も作成しました。是非ご覧ください。

### 3. インフラ長寿命化センターからインフラ総合研究センターへの改組

インフラ長寿命化センターは2007年1月に設立され、これまで道路インフラの維持管理に関する教育・研究・社会貢献を実施してきましたが、2022年10月1日にインフラ総合研究センターへ発展的に改組しました。

インフラ総合研究センターのミッションは、「国、長崎県、県内自治体、関係機関、団体等との連携のもと、社会インフラの整備・維持管理、自然災害に対する防災・減災、及び歴史的建造物の活用・維持・保存のための活動、並びに関連分野の人材育成を行うこと」です。そのために組織も、土木構造部門、防災減災部門、歴史的建造物・景観部門、人材育成部門の4部門で構成。2023年4月1日からは中村聖三先生がセンター長に就任しました。

長崎大学では2024年度を目途として、工学、水産、環境、情報学部の大学院を一研究科として改組が進められています。これまでは主として工学研究科の教職員だけで実施・運営してきましたが、これからは水産学部や環境科学部、情報データ科学部、さらに人文科学系の経済学部や多文化科学部や教育学部等、他学部との連携も想定した、インフラ総合研究センターを目指してほしいと思います。

インフラ維持管理、防災・減災、歴史的建造物・景観、人材育成のために、低リスク、低コストで高品質な技術の開発と人材育成に貢献していただくことを祈念しています。

最後に、インフラ長寿命化センターの創設から16年にわたり、多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

2023年4月 松田 浩

# 道守養成講座開催(道守補コースと特定道守コース)

道守養成講座のうち、「道守補コース」については長崎地区に加えて、宮崎地区(宮崎大学)と関西地区(関西大学)で開催しています。募集、受講許可、合否判定及び認定カードの発行は長崎大学で、講座の座学、演習及び実習の実施は開催地区の大学で担当しています。宮崎地区と関西地区での開催に伴って、長崎県外の認定者が増え、道守補以上の認定者の24%は県外となっています。

「特定道守コース」と「道守コース」は長崎地区のみでの開催です。今年度、特定道守コース(トンネル)の受講料と更新手数料の改定をしました。

2022年度も新型コロナウイルス感染状況が見えない中で道守養成講座を計画しました。長崎大学での開催においてはワクチン3回接種済みなどの参加条件を付けました。募集にあたって受講申し込み者数が心配されましたが、いずれのコースも開催可能な応募がありました。コロナウィルス感染症対策を十分とりながらの開催でしたが、皆様の協力が無事に終えることができました。

●各コースの開催期間・受講人数

コース名	開催期間	受講者数
道守補コース(長崎)	8月22日～9月30日	40人
道守補コース(関西)	8月25日～8月31日	9人
道守補コース(宮崎)	11月24日～12月2日	17人
特定道守コース	9月20日～11月11日	20人



道守補：コンクリート演習

なお、長崎地区の道守補コースのコンクリート演習講師に新たな認定者の方が数名加わりました。



道守補：斜面実習



特定道守：プロジェクト演習



特定道守：トンネル点検



# 行ってきました！「橋梁建設現場見学会」



道守養成ユニットの会と長崎大学は11月16日に国土交通省長崎河川国道事務所発注の「本明川ダム付替道落2号跨道橋新設工事」の現場見学会を実施しました。同現場の施工者であるオリエンタル白石(株)と国土交通省長崎河川国道事務所のご協力で実現したものです。コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となった見学会には道守認定者14人と大学1人の15人が参加しました。



付替道落2号跨道橋



参加者はまずダム集会所で本明川ダム事業とPC単純斜材付きπ型ラーメン橋の設計、施工等に関する概要の説明を受けた後に建設現場で施工状況を見学しました。参加者から桁の排水対策、コンクリートの打設方法等の専門的な質問が相次ぎ、維持管理を考えた設計や施工を考える貴重な場になりました。特に、コンサルタント業の道守認定者には、施工現場を見学する貴重な経験となりました。



見学会の様子

## 「土木の仕事にやりがい」道守補助員コース開催

2022年度から新たに九州地域づくり協会の人材育成助成の支援を得て、フォローアップ研修を加えた建設業新規就職者を対象にした道守補助員コースを開催しました。建設業に就職後3年以内の技術者を募集したところ、建設施工業、建設コンサルタント業及び自治体の技術者からなる元気な19人の応募がありました。

11月17日に5時間の道守補助員コースの研修会を開催し、長崎県道路維持課の講師と若手の先生方に長崎県の橋梁の現状と橋梁、斜面、トンネルの変状についての講義を担当していただき、さらに、コンクリート橋梁と道路斜面の現場点検実習を実施しました。



橋梁点検実習



道路見守り活動出発式

12月10日のフォローアップ研修では、受講生はまず道守認定者が行う長崎地域での道路見守り活動に参加し、先輩と合同で道路見守り活動(道路点検と清掃活動)を行いました。次に、講義室で受講者と先輩の道守認定者・大学関係者等が参加した講演会と意見交換会が開催されました。「道守養成ユニットの会」事務局の三浦愛希良氏による「建設業における

キャリア形成を考える」と長崎県技術職員東川久氏による「技術屋を楽しむ」の2つの講話がありました。通常業務の中で個人の資格取得やキャリア形成に取り組む意欲的な活動の紹介でした。その後、長崎大学出水享博士による「土木の使命と価値」と題する土木の広報の取組みの講演がありました。先輩方の資格取得、

新たな海外派遣等へのキャリアパスへの挑戦や土木の使命についての話題提供は若い人に新たな認識や土木の仕事にやりがいを持ってもらう場になりました。また、充実した受講生と先輩との意見交換の場となりました。受講者も道守認定者にも大変好評な研修会となりました。コロナウィルス感染症が終息したらグループ討論、ワークショップの開催等を企画する予定でいます。

先輩方



三浦講師



東川講師



フォローアップ研修

## 佐世保市橋梁直営点検 パート2

道するべ39号で紹介したように佐世保市は2022年度から橋梁定期点検の一部を市職員による直営点検で行っています。対象橋梁は健全度が高く、はしごなどで点検できる橋梁であり、2022年度は38橋を対象に市職員3人1組体制で点検しました。点検後に、既存資料を基に現地点検結果を整理し健全度の診断を行います。その診断結果に対する評価及び補修工法等の技術的助言を長崎大学が行うために、学内で市職員と大学教員が参加する判定検討会を設置する計画にしています。市職員が現場で経験を積み、現場対応力を養う機会となり、さらに判定検討会の議論から職員の技術力向上を期待したものです。

契約時には、すべての橋梁点検が終わった年度末に判定検討会議を行う予定でしたが、5月25日の第1回打ち合わせ会で大学の提案により10橋程度点検終了後に中間判定検討会を開催し、事後の点検に反映させる計画に変更しました。

点検予定の38橋のうち21橋が点検済みの時点で、11月10日に中間判定検討会を開催。Ⅱ判定の橋梁について橋梁ごとに点検結果の説明と点検調査表の記載の仕方、判定区分の評価についての質疑応答から、判定区分Ⅱの取り扱いについて議論集中的になされました。議論の結果をもとに修正や市役所の担当で対応方針を検討することが確認されました。

最終判定検討会は翌年1月31日に開催され、佐世保市から点検担当者も参加して健全度の評価、点検の効率化等への意見交換と、次年度に向けての更なる連携の在り方が議論されました。これまでの佐世保市の橋梁点検の実績を踏まえながら、効率化・高度化に向けての佐世保市と大学の受託研究が無事にスタートできました。佐世保市職員による市管理の橋梁は自分たちで考えていくことに対して、大学は技術や研究の視点から連携・支援して行きたいと考えています。佐世保市に限らず、道守認定者が自治体の維持管理の部署に配置されている場合は、スムーズに連携を進めることができます。



10月 中間判定検討会



1月 最終判定検討会



# 長崎市受託研究：2022年度の取り組み

2019年度から長崎市より橋梁の効率的な維持管理に関する研究の依頼を受けて、受託研究として大学と「道守養成ユニットの会」会員が連携して取り組んでいます。点検対象橋梁を長崎市から提供を受け、実施体制の整備、点検結果の取りまとめは大学が、橋梁点検は経験豊富な道守認定者が担当し、併せて市職員等への技術指導を行っています。2022年度の受託研究の取り組み内容を以下に紹介します。

## 1 効率的な定期点検手法の提案

### ①道守認定者と連携した点検

今年度も橋長 15m 以下の 30 橋の長崎市定期橋梁点検を道守養成ユニットの会として連携して実施。12月に5班3人体制で建設コンサルタント所属の道守認定者が点検を担当しました。今年度も建設施工業の道守認定者の参加は時期的に繁忙期に当たりできませんでした。架設年不明の23橋について、航空写真の活用で架設年を特定しました。

### ②市職員と道守認定者による合同点検

市職員の橋梁点検・補修に関する技術習得を図るため、3橋について市職員4人と道守認定者が同行して現地での合同点検を行い、橋梁点検の着目点と記録方法について専門的な立場から市職員に技術的指導を行いました。

### ③評価検討会議の開催による点検結果の質の向上

点検結果が揃うと点検結果の評価検討会議を1月17日に開催して、点検担当の道守認定者、管理者である長崎市職員、大学教員が職域の立場を超えて、点検結果に関する専門的な議論をし、点検結果の質の向上に役立つ議論ができました。

## 2 設計コンサルタントに対する技術的指導の実施

長崎市内の設計コンサルタント及び市職員の補修設計技術の向上を図るための補修設計に関する研修会開催の提案が長崎市からなされました。道守養成講座は橋梁の点検・診断までをカバーしているが、補修設計や補修工事については入門程度にとどまっていることから必要性が高い研修といえます。準備の段階で、補修工事担当から補修設計担当に施工経験を踏まえて伝えたいこと、補修後の点検や再劣化の事例紹介、補修工法の内容と選択を柱に講師とプログラムを2日間で開催する方針を決め、講師の人選を行いました。特定道守のコンクリート構造の補修を担当している樋野企画の樋野勝巳先生が全国で補修設計や補修施工の研修会を担当していることが判明し、1日半の補修設計を快諾していただいて、カリキュラムの検討をしました。橋梁の補修設計の課題や事例を長崎市がまとめ、講義や演習の教材に使用できるようにしました。教材の準備ができた2月8日と9日に長崎大学で「補修設計に関する研修会」を開催しました。受講者は28人で、コンサルタントの技術者が主な対象でしたが、市町からも5人が参加しました。参加者アンケートによれば、大好評で今後も開催して欲しいとする回答が多くありました。



深堀町6号橋点検状況



評価検討会議



補修設計研修会



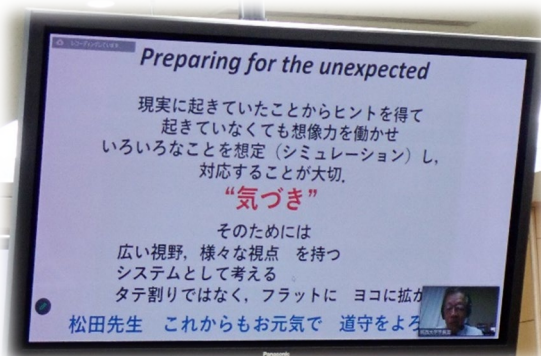
成果報告会会場

2022年度の道守養成ユニットの会の成果報告会「地方の道をいかに守っていくか」が、2月16日に文教スカイホールにおいて、3年ぶりに対面とオンラインで開催されました。今年度の成果報告会は、これまでセンター長として道守養成ユニット養成講座を創設・継続してきた松田教授の労をねぎらい、新センターとしてスタートしたインフラ総合研究センターを紹介することを目的として計画がなされ、対面・オンラインともそれぞれ100人が参加しました。報告会の第1部では、松田センター長が「インフラ長寿命化センターのあゆみと将来」と題して、これまでの15年間のあゆみとインフラメンテナンスの将来についてあるべき姿を参加者に伝えました。第2部の「松田センター長と歩んだ15年」では、これまで松田先生と深い交流があった城西大学学長藤野陽三先生、岐阜大学インフラマネジメント技術研究センター長沢田秀和先生、東北大学インフラ・マネジメント研究センター長久田真先生、日本大学教授岩城一郎先生、橋守支援センター橋守塾塾長阿部允氏、道守養成ユニットの会会長吉川國夫氏、岐阜大学名誉教授八嶋厚先生が松田先生とのこれまでの交流を紹介し、労をねぎらい、今後の活躍への期待を述べました。第3部では、長崎大学からインフラ総合研究センターの紹介と2022年度の道守養成講座の実施報告がなされました。



松田先生特別講演

藤野城西大学学長からのメッセージ



藤野城西大学学長からのメッセージ



八嶋岐阜大学名誉教授

終了後に道守養成ユニットの会の会員に対して岐阜大学熊田様と岐阜 ME 掛様が3月9,10日に岐阜市文化センターで開催予定のME・道守の修了生WSとシンポジウムの開催内容の説明と参加依頼をしました。

## 松田センター長がインフラメンテナンスマイスター賞受賞



土木学会インフラメンテナンス総合委員会ではインフラメンテナンス賞の表彰制度を2021年度に創設しています。賞のうち、インフラメンテナンスに関する技術やマネジメント全般において、豊富な実務経験に基づく卓越した総合的かつ指導的能力を有し顕著に活躍している個人を選考し、「インフラメンテナンスマイスター賞」として表彰しています。

2022年度の同賞を松田浩センター長が受賞しました。受賞理由は、「長崎大学に「インフラ長寿命化センター」を設立し、長年





にわたり「道守養成講座」、「SIP インフラの地域実装支援」等の活動を通じて産学官が連携した教育研究施設として育て、研究教育、社会貢献、人材育成等に多大な実績をあげている。」ことです。表彰式は、2月27日に土木学会講堂で挙行され、松田センター長はオンラインで出席しました。

## ME・道守修了生ワークショップ&シンポジウムに参加して《馬場・今村・川口》

### 1. 全体報告

3月9日・10日、岐阜市でME & 道守修了生によるワークショップならびに人材育成シンポジウムが開催され、長崎からは馬場一孝・今村音英・川口博生（3名）が参加してきました。

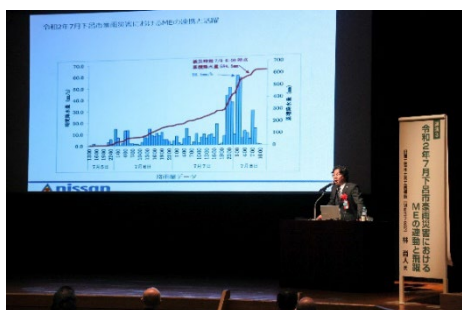
9日のワークショップでは、午前中に「女性技術者の目線で考える土木業界の課題」が討議され、午後からは各ME・道守の活動紹介を行った後、アンケート結果も参考にして「技術者としてのあり方」について、3つのテーマに沿ってグループ討議しました。私たち3名も各テーマ（グループ）に振り分けられ、討議した内容としましては…

- テーマ①：当たり前をインフラを守る**…MEや道守の資格を取得することはゴールではなく、土木技術者としての学び直しのスタートであり、アップデートが必要不可欠。
- テーマ②：災害に向き合う覚悟**…災害時・緊急時に技術者として迅速かつ確かな判断・行動を（指示が無くても）出来るよう日頃からの備えが必要であり、災害の経験を活かし、学び、自己研鑽に務めることが必要である。
- テーマ③：将来のMEや道守としての活動について**…ME・道守の知名度不足の解消のためには各地域単位ではなく全国（全体）的な組織へ拡大する、また、技術者名鑑で専門分野の確立、ME知恵袋のほか、若者不足で技術の継承が心配などの意見が出ました。



ワークショップと発表の様子

10日のシンポジウムでは、災害関連の3講演があり、実際に被害（トンネル崩落）を受けた方の体験談や東日本大震災・豪雨災害の復旧に携わった方がMEの連携により対応された話を聞くことができ、被災者の苦悩や啓開・復旧作業の大変さ・すごさを感じるとともに、MEのつながりの重要性について再認識させられる内容でした。また、各大学・センターによる人材育成の報告やワークショップでの討議内容の発表もあり、最後には、定年退職される松田先生に花束が贈呈される場面もありました。



シンポジウム 講演の様子



道守活動を紹介する川口



松田先生 花束贈呈

両日の意見交換会にも参加し、岐阜・四国・山口・新潟のMEや大学関係者など多くの方と色々な話をさせていただきましたが、考えさせられることも多く、特にMEの方々は技術者としての意識・プライド・使命感が高く、連携（繋がり）を大切にしている感じが強く印象に残った内容の濃い二日間でした。

来年度は新潟で開催されるようですので、多くの方が参加され、道守活動がさらに盛り上がっていくことに期待します。



## 2.参加しての感想

シンポジウムに参加し岐阜・愛媛・山口・新潟MEの皆様と昼夜の意見交換ができましたことは、昨年度を退職した私にとりまして、土木技術者としての学び直しを考える良い機会となりました。建設業、コンサル、大学、公務員など様々な立場の技術者が繋がり、知恵を出し、理解しあいながら大きな災害やインフラ整備に向き合う必要性を再認識したところです。《馬場》

臨場感を感じながらの講演会は、非常にためになりました。特に発注者（ME）、コンサル（ME）、施工者（ME）の相互関係で待たなしの災害に取り組み、通常なら時間がかかることがすごく短縮できて、地元からも感謝されて技術的にも評価された事は素晴らしいの一言です。MEの半数が国・県の職員だから出来ると思われまます。この点が道守の今後の課題かもしれません。みなさんの真剣に討論する姿・熱心に講演を聞く姿を見て、私もまだまだがんばろうと思いました。《今村》

平成27年度の名古屋に続き2度目の参加でしたが、今回もMEの方々の熱意に圧倒されました。年度末の開催にもかかわらず、ワークショップ&シンポジウムに参加されるぐらいですので、各MEの活動の中心となられる方々ばかりでしたが、お話をさせていただくと本当に感心させられ、やる気・パワーをいただけます。次回は、年度末を外しての開催になると思いますので、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。《川口》

## 地域部会活動 2022 活動再開へ

コロナ禍の続く中で、地域部会の活動が再開されつつあります。長崎地域部会の「長崎駅前高架広場 アロマカーテン作戦」は道するべ39号に紹介しましたので、それ以外の活動を一覧表にまとめています。道守養成ユニットの会のロゴマークが入ったジャケットも馴染んできました。これに来年度から道守養成ユニットの会ののぼりをお送りしていますので、ご活用をお願いいたします。下五島地域部会では、長崎県の三者合同点検への参加を事業計画としています。道路見守り活動の参加人数が少ない場合はカーブミラーの清掃や同ひび割れ注入のように少人数でも開催できる企画を実施しています。今年設立された関西地域部会は橋梁の補修工事現場見学会に2回参加しています。

地域部会名	開催日	活動内容	参加者数
長崎	5月14日(土)	道路見守り活動	34人
	7月9日(土)	道路見守り活動	20人
	9月10日(土)	道路見守り活動	16人
	12月10日(土)	道路見守り活動	32人
県央	9月17日(土)	道路見守り活動	14人
佐世保	7月23日(土)	道路見守り活動	24人
島原	10月23日(日)	カーブミラー清掃	3人
下五島	7月23日(土)	橋梁点検	5人
上五島	10月14日(月)	道路見守り活動	11人
壱岐	3月25日(土)	道路ひび割れ注入	4人
関西	9月30日(金)	補修工事見学会	7人
	11月25日(金)	補修工事見学会	16人



5月14日 長崎地域部会



7月23日 佐世保地域部会





7月23日 下五島地域部会



9月17日 県央地域部会



10月14日 上五島地域部



10月23日 島原地域部会



3月25日 吉岐地域部会

2023年度はコロナ禍の終息に伴い、活動が以前のように自由になりますので、技術研修会、講演会、見学会、小学生を対象としたイベント等が開催できることを期待しています。センターに連絡していただければ、長崎大学から先生方が講師として参加することも可能です。長崎県環境アドバイザー制度を活用すれば、講師の謝金や旅費の支援が得られます。

地域部会の活動を他の地域部会に参加案内したい場合、新聞に取材を依頼したい場合、CPDSを申請したい場合、道守養成ユニットの会のHPに活動を掲載したい場合等は、事務局のセンターにご連絡ください。



## 道守ユニットの会の「のぼり」作成

地域部会で道路見守り活動や清掃活動をする際に、会ののぼりを使いたいという連絡が県央地域部会から事務局に寄せられました。センターでは長崎地区で以前から使用しているのぼりを保管しておりましたので、とりあえず貸し出しましたが、行事が重なることもあり、不足を感じておりました。

各地域部会に意見を伺ったところ、必要だという回答が多く、持ち回りの理事会でのぼりの作成が承認されました。のぼりのデザイン等は県央地域部会長濱崎様にお願いました。完成品を各地域部会長にお送りしていますが、今回の地域部会活動でもよく利用されていました。

道路見守り活動以外のイベント等にも活用できますので、お使いいただくようお願いいたします。

ユニットの会のベストと  
合わせてご利用ください！



## 編集後記 ～退職のご挨拶～

長く続いたコロナ禍で、皆様も様々な制限に直面し、活動や交流の機会が限られていたのではないのでしょうか。その制限が緩和され、2月16日の成果報告会において久々に皆様の交流の機会となる行事を開催することができ、日常が戻りつつあることを実感しました。

私は5年にわたりセンターの業務に携わってまいりましたが、3月で退職いたしました。

暮らしに欠かせないインフラの安全性や耐久性を保つためには多くの人々の努力が必要で、その一環として、道路見守り活動や橋梁点検といった皆様の取り組みが、安心・安全な社会を支えていることを知り、専門外の自分にとって貴重な学びとなりました。

今後は新たな環境で仕事に取り組んでまいります。

今後とも皆様のご活躍をお祈り申し上げます。お世話になりました。 (T.M)



# 問合わせ先

長崎大学大学院工学研究科 インフラ総合研究センター 道守養成事務局

〒852-8521 長崎市文教町1番14号 TEL 095-819-2880 FAX 095-819-2879

Mail: [michimori@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:michimori@ml.nagasaki-u.ac.jp)

- [インフラ総合研究センターHP]

<http://ilem.jp>



- [Facebook]

<https://www.facebook.com/ilem.nagasaki>



- [道守養成ユニット HP]

<https://michimori.net>

- [道守ユニットの会 HP]

<https://www.michimori-unit.org/>

発行 2023. 4. 20